

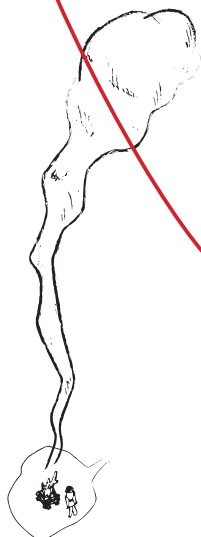


ひみこ やかた
「卑弥呼の館」の地図

おおみぞ
大溝にゴミをすてる人

復原 卑弥呼の館

卑弥呼は弥生時代の終わりごろの人で、邪馬台国と呼ばれたクニの女王であったといわれています。「卑弥呼の館」の模型は、その卑弥呼のいたクニの中心地を想像して作ったものです。当時の人たちのくらしを表現しています。



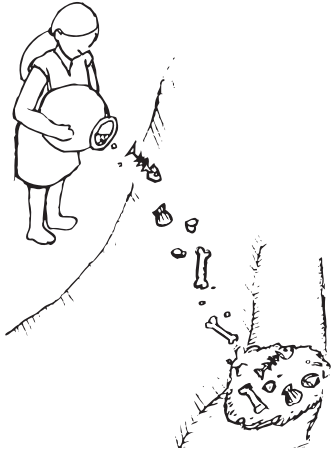
☆ 左の絵のように木を燃やして煙を出している場所があるよ。どこか探して上の地図に◎印を入れてみよう。

これは遠くにいる人に連絡する昔の方法で、「のろし」と呼ばれるものだよ。遠くから見えやすいように高いところで煙を出しているんだ。

もけい やよい
模型の中の弥生のくらし

☆ 下の2つの絵は模型の中にあるようすを描いているよ。それぞれの場所を模型の中から探して、おもての地図に㊶・㊷の記号をかき入れてみよう。

㊶ ゴミをすてる (2ヶ所)



㊷ 井戸で水をくむ (2ヶ所)



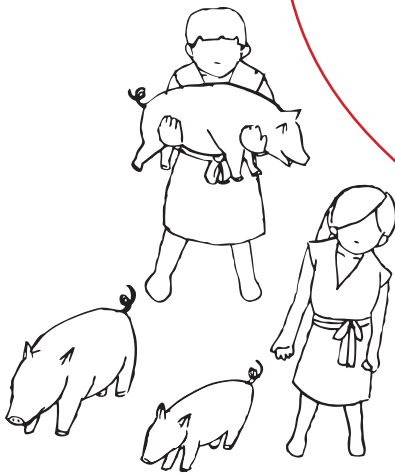
しゅうらく おおみぞ おおみ、くま
集落のまわりを囲む大溝は、狼や熊などの動物、または他のクニの人が入ってくるのを防ぐためと言われているよ。
それ以外にも、絵のようにゴミをすてたり、トイレに使ったりもしているよ。

水は、それまでは自然の川やわき水の出る場所に行ってくんでいました。弥生時代になると、村の中に井戸を作って、水がくみやすくなったよ。

弥生時代のイノシシの骨を調べると歯槽膿漏になっているものがあり、野生のイノシシは歯槽膿漏にはならないことから、人に飼われていたと考えられています。

☆ 弥生の人たちは、野生のイノシシを捕まえて育てていたよ。何のためかな。次のア～ウから1つえらんでみよう。

(イ)



ア. ペットとして飼っていた。

イ. いつでも食べられるように、家畜として飼っていた。

ウ. 狼や熊などから村を守るために番犬として飼っていた。